

山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ～ネットワークの意義と可能性～

1. 設立までの経緯

平成 18 年の「総合型地域スポーツクラブサミット in 山形」の研修会終了後に、参加した県内のクラブに対して、継続したクラブ間の連携と交流、相互支援を図るために「山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」の設立を提案、参加クラブの賛同を得ることができました。

当時のクラブ代表 11 名による発起人が 6 ヶ月の検討協議を重ねて、平成 19 年 7 月 9 日に設立総会を開催し、35 クラブの加入でスタートしました。平成 23 年度は、47 クラブの加入による活動でしたが、平成 24 年度は、県内 61 クラブ（準備クラブ 5 含む）、100%の加入をめざしています。

2. 組織と連絡協議会の活動

県内を 4 地区（村山、置賜、最上、庄内）に分け、各地区推薦の理事による自主運営体系を組織し、連絡協議会ミッションのもと、山形県教育委員会及び山形県体育協会と密接な連携協働を図っています。

県民の健康・生きがいがづくり・青少年の健全育成・明るいコミュニティーづくりは勿論ですが、クラブ相互の会員交流をめざした実技交流会や、個々のクラブの充実した運営と運営スタッフの資質の向上をめざした各種研修会、情報交換会の開催に取り組んでいます。

実技交流会では、各クラブ対抗形式で、スポーツ吹き矢などのニュースポーツを実際に行ったり紹介を受けたり、研修会では講師を招いて「NPO 法人化のメリット・デメリット」「指定管理を含む事業拡大策」「クラブの評価法」等の内容を学んでいます。



さらに、平成 23 年度からは、4 地区ごとに協議会を設立し、地区内クラブ間のネットワークを大切にしながら、地区の実情に合った研修会、クラブ間スポーツ交流・指導者交流・事業協働・情報交換・課題解決などの活動を行い、楽しいクラブづくりに励んでいます。

今年度の新規事業としては、置賜地区協議会が東日本大震災後の「避難者交流推進事業」を受託、管内クラブ全体で避難者の方々との交流を深めています（関連リンク参照）。

県連絡協議会の財源は、加入クラブ負担金（1 クラブ 5,000 円）、県体育協会より活動助成金、その他の収入で予算化され、4 地区協議会活動のために一定額支援を行っています。

3. 今後の展望（ネットワークの必要性とその効果）

どのクラブにも設立後にさまざまな課題・問題が生じています。当事者内の課題は別にしても、共通の悩みや課題については、クラブ間相互の情報交換の場や交流の中から解決できる糸口が見出せることが、これまでの連絡協議会としての活動から数多く実証されています。

ネットワーク化を図ることはクラブの大切な自己評価にも繋がり、特色ある楽しいクラブの発展・充実にも重要なことです。これからのクラブに期待されている「新しい公共の担い手」としての役割を果たしていけるとも考えています。

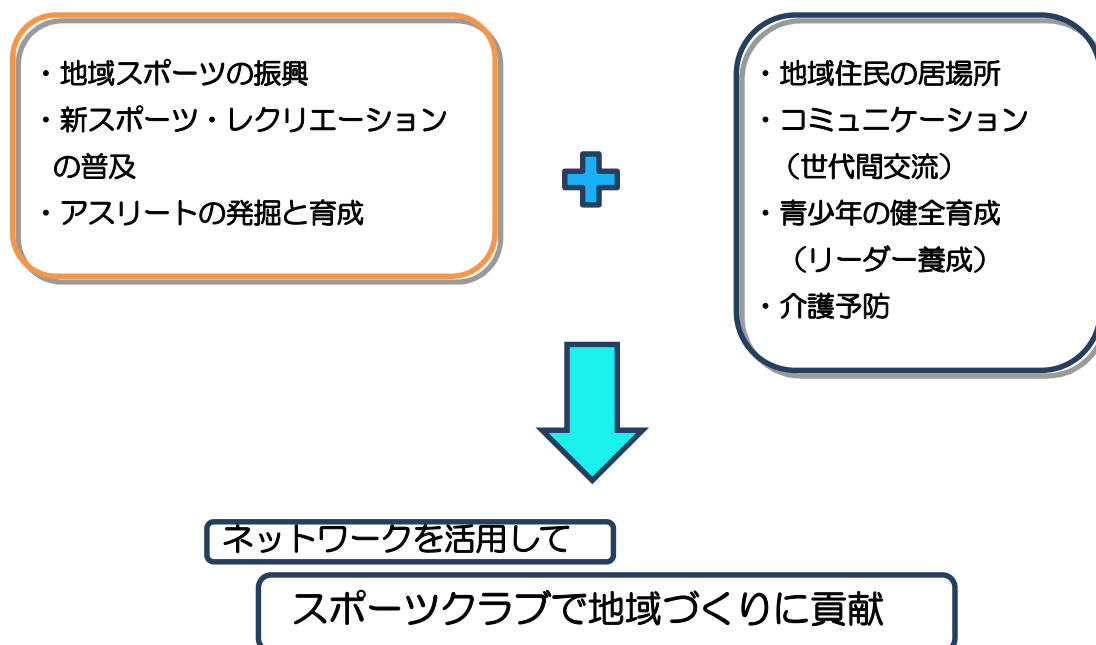
また、今後は、クラブ間のネットワーク化とともに、行政・学校・地域・各種競技団体（組織）等々との連携、協働も重要な課題となってきます。なぜなら、このネットワークの効果こそが、設立した全てのクラブが一つも欠けることなく 50 年後・100 年後……住民の生きがいの場として愛され存続することに繋がっていくと信じているからです。

山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は、それぞれ形態は違っても 61 のクラブを一つの大家族として、心の繋がりを大切に知恵と勇気と行動力で進んでいきます。

（鎌田博子 山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長）

＜連絡協議会のミッション＞

山形県内の総合型地域スポーツクラブが、相互の親睦と融和連携・融合を図り、地域スポーツの振興と県内の総合型地域スポーツクラブの発展・活性化を推進し、地域社会における健康で豊かな生活の実現と、明るいコミュニティづくりに寄与することを目的とする。



【山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会事務局 連絡先】

〒990-0300 東村山郡山辺町緑ヶ丘 1（山辺町民総合体育館内）

T E L : 023-664-7263 F A X : 023-664-7256

山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 事務局長 岡崎 由美子

関連リンク：おきたま地域に避難されているみなさまへ「おきたまスポーツ交流のご案内」（PDF）

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H24/H24.9.SCPR_yamagata_chirashi.pdf